



## いつの時代も変わらないもの

### 増子 陽 (ましこ あきら)

株式会社 増子商事  
代表取締役



#### —創業と設立—

弊社の創業は遡ること江戸時代。郡山が奥州街道の宿場町だったころの1828年に、ここ郡山市大町において小間物屋・お茶商として創業したのが原点です。その後は質屋や貸家など時代とともに業態を変え、先々代である私の祖父が1959年6月に現在の貸しビル業を設立いたしました。ビル1棟からはじまり、高度経済成長期を果敢に駆け抜け、郡山駅前を中心に少しずつ物件を増やし、1992年には弊社としては初めてとなるオフィス専用ビル「増子中町ビル」が完成。現在では飲食ビルやオフィスビル合わせて計11棟のビルの他、駐車場やガレージ、広告看板など幅広く賃貸業を営んでおります。

#### —時代の変化とともに—

昨年は新型コロナウイルス感染症が世界中に多大な影響を及ぼしました。今まで当たり前だった業務について大幅に見直しをされた事業所も多かったのではないのでしょうか。今年の幕開けも大変厳しい社会情勢は続いており、私たちの暮らしも新しい生活様式が定着しはじめ、世の中のニー

ズも大きく変革されることになりました。そもそも、近年の地域課題の一つに、核家族化やライフスタイルの変化、多様化が進行することに伴う「人と人とのつながり、地域とのつながりの希薄化」が挙げられております。そこへ昨年からの新型コロナの影響により、仕事ではテレワークの拡大から職場内における対人コミュニケーションの



第1 増子ビル

機会は減少し、普段の生活においても人と人との接触は大きく制限され、日常の直接的な人とのつながりの希薄化は拡大する一方です。

### —過去の取り組み—

私が入社したころのお話しになりますが、入社半年後の2011年3月に東日本大震災が発災いたしました。建物すべてで被災した弊社も、それまで経験したことのない甚大な被害に見舞われました。その時の思い切った取り組みの一つが、すべての飲食店の家賃を一斉に減額したことです。当時のごく一部ですが家賃支払いの遅れや未払いのテナントもあり、私は「この震災を理由に支払い逃れをしようとするテナントには厳しく対応しなければ」と、考えていましたが、弊社の設立者でもある私の祖父は違いました。「とてもテナントの皆がかわいそうで家賃をまともにはいただけない」と、まったく逆の考えだったのです。店内の酒瓶は大量に割れ、ビル中にお酒の匂いが充満しながら日夜片付けに追われるテナントの姿を見ていたものの、私は目先の利益にとらわれてしまい、何故ここまで困っている状況を目の当たりにしながらテナントに寄り添い、支えてあげるような対応や支援が思いつかなかったのか強く反省しました。すぐさま考えを改め、テナントに求められる前に震災直後の家賃を先駆けて減額して請求することを敢行しました。そして、できるだけ多くの時間を費やし、積極的にテナントの方々にお会いしてお話しをお聞きするようになりました。その後、ほどなくして家賃の遅れや未払いは解消し、ビル全体の入居率もしばらくの間は95パーセント以上を推移することになりました。家賃減額といった支援だけではなく、直接お会いして心と心を通わせることでより深みのある信頼関係を築くことができた結果ではないかと思っています。

### —新型コロナウイルス感染症の影響—

そして昨年からの新型コロナによる深刻な被害。夜の街並みは目を覆いたくなるほど閑散としてい

ます。いつになれば出口が見えてくるのか。特に飲食店主たちは先の見えない状況から、いつ気持ちの糸が切れてもおかしくありません。弊社としては今回もまた、わずかではありますがテナントに寄り添いながら積極的にお手伝いや支援に取り組ませていただいております。業種を問わず休業や廃業される事業所も数多い中、弊社ビルテナントは新型コロナを理由とした廃業等はいまだに1件もありません。なんとも心強い限りです。近頃は特によく相談をいただくようになり、「困ったことがあれば増子商事に相談すればきっと何とかしてくれる」と、弊社を頼ってお越しになる方も増えるようになりました。

### —先人たちの教え—

「困っている人がいたら助けてあげなさい」子供のころ当たり前に親や先生から幾度となく教えられたことです。これはすなわち日本人がはるか昔から築き上げてきた「相互扶助の精神」であり、目まぐるしく変化する今そしてこれからの時代においても、いつの時代も変わらない最も重要な要素の一つであると考えております。そしてまた、こんな時代だからこそ、同じ空間で心と心を通わせなければ築くことができない信頼関係や、そのつながりも重要になってくるのではないのでしょうか。

### —最後に—

弊社は賃貸業です。様々な状況における「人と人とのつながり」を考え、「心と心を通わせる」ことができる空間を「物件」という形でご提供すること、そして「相互扶助の精神」のもと、これからの時代に求められるもの、いつの時代も変わらないものを常に追求し、人に地域に頼られ、必要とされる企業へと成長してまいります。まだ大変な状況は続きそうですが、手を携えともに歩み、決して諦めることなくこの難局を必ず乗り越えてまいります。